

ほんばこ



ながつき もみじつき はぎつき
9月(長月 紅葉月 萩月)

二十四節気

はくろ
白露 8日 大気が冷えてきて露を結ぶ頃です。朝夕の涼しさがくつきりと際立ってきます。

しゅうぶん
秋分 23日 春分と同じく昼夜の長さが同じになる日です。これから次第に日が短くなり、秋が深まっていきます。

愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2019

白露の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。秋の訪れを感じさせない暑さに日々煩わしさを感じます。二学期も始まったばかりなので引き締めて頑張りましょう。

『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン 著 扶桑社

これは医師であるスペンサー・ジョンソンによって執筆された本です。2人の小人と2匹のネズミが迷路の中でチーズを探すという物語です。新しいことを始めることや変わることの重要性を様々な角度から説くところがこの本の魅力だと思います。また物語の中で様々な心に響く格言が登場するところも魅力だと思います。複雑な思考ばかりで考えずに、時には単純に考えることがこの本の鍵だと思います。つい最近19年の月日を経て続編も出版されたので、ぜひ読んでみてください。

(2年生男子)

博物館（理系）に行ってみよう！

- 1 科学博物館（上野） 生物系が充実。なお、別館には巨大なピタゴラスイッチもある。
- 2 科学技術館（北の丸公園） 物理・鉄鋼のイメージがある。
- 3 科学未来館（お台場） 最先端のイメージ。毛利衛が宇宙にいたとき科学未来館と中継を繋いだのが印象的だった。
- 4 東京大学総合研究博物館（文京区本郷） 人骨や巨大ウマに驚く。
- 5 インターメディアテク 東京駅八重洲口前のKITTEビルにある。東大の総合研究博物館が主催で、常設展は東大関係の多様なコレクションが並んでいて目を見張る。特別展もその都度理系的な展示をしている。
- 6 東京工大博物館（目黒区大岡山） ザ・理工系です。
- 7 船の科学館（お台場） ゆりかもめで行ける。
- 8 横浜みなと博物館（横浜みなとみらい） 海事関係の博物館。日本丸メモリアルパークもある。
- 9 日本郵船氷川丸 横浜の山下公園の近くにある。中に入れる。船の中がわかる。
- 10 さいたま市大宮の鉄道博物館 大きい。運転のシミュレーターもある。昔は秋葉原にあったがここに移転した。
- 11 北海道大学総合博物館（札幌） クラーク博士始め歴史なども展示してあるが、北海道・オホーツク圏の生物標本などが凄い。
- 12 新居浜の県総合科学博物館 プラネタリウムもあります。
- 13 あかがねミュージアム 新居浜駅隣接。
- 14 大三島の海事科学館 神社の隣。

1 5 野間馬ランド 日本に昔からいるウマはサラブレッドなどではなく背の低い力持ちのウマだとよくわかる。

1 6 西条の鉄道歴史パーク 0系新幹線が置いてある。駅のすぐ隣。

(図書研修課)

坂口安吾 (さかぐちあんご) について

年譜

1 9 0 6 (明治 3 9) 1 0 月 2 0 日、新潟県に生まれる。父親は県下で最も有力な代議士の一人。安吾は十三人兄妹の十二番目。(太宰治と似た境遇だ。)

1 9 1 9 (大正 8) 県立新潟中学 (名門) に入学。中学では学業を怠り落第。

1 9 2 2 (大正 1 1) 東京の豊山 (ぶざん) 中学 (私立) に転校。ハイジャンプで記録を作る。文学と宗教に目覚める。

1 9 2 5 (大正 1 4) 中学を出て小学校の代用教員として働く。

1 9 2 6 (大正 1 5 = 昭和 1) 東洋大学印度哲学科に入学。悟りを開くため一日睡眠 4 時間の生活を続け神経衰弱に陥る。(きわめてまじめで求道者タイプの人だと言える。)

1 9 2 8 (昭和 3) アテネ・フランセに入学 (ダブルスクール)。

1 9 3 1 (昭和 6) 『風博士』『黒谷村』で新人作家として認められる。

1 9 3 2 (昭和 7) 矢田津世子と知り合う。(この恋愛は安吾にとって大変つらいものだったようだ。)

1 9 3 6 (昭和 1 1) 矢田津世子に絶縁の手紙を送る。『吹雪物語』にとりかかる。

1 9 3 7 (昭和 1 2) 京都に移住。伏見あたりで生活する。

1 9 3 8 (昭和 1 3) 茨城の取手に住む。

1 9 4 0 (昭和 1 5) 三好達治の誘いで神奈川の小田原に住む。

1 9 4 1 (昭和 1 6) 『文学のふるさと』(このあたりで安吾は新しい安吾になったとされる。)

1 9 4 2 (昭和 1 7) 『日本文化私観』『青春論』

1 9 4 6 (昭和 2 1) 『墮落論』で評判に。『白痴』『続墮落論』(戦後無頼派の代表として人気に。)

1 9 4 7 (昭和 2 2) 『風と光と二十の私と』『教祖の文学』『桜の森の満開の下』など。流行作家として活躍。なお、この春、梶三千代と結婚。

1 9 5 0 (昭和 2 5) 『安吾巷談』

1 9 5 5 (昭和 3 0) 2 月 2 7 日、没。(筑摩現代文学大系 5 8 『坂口安吾集』の年譜他を参照した。)

(図書研修課)

